

地域の一員になって



大和町宮床にある「里山Dining七ツ母里」は、日本各地から取り寄せたこだわりの新ソバや季節の和食を味わいながら、自然の中でゆったりとしたひと時を過ごすことができるお店だ。

この店で料理の腕を振るう森秀樹さん（39）は、昨年から地元農家と協力してソバ栽培を始めた。

飲食店が栽培に関わるメリットとしては、自身が持つ販路や顧客を活用することで安定した売上が期待できることや店で提供する食材の原価を下げられることなどがある。協力する農家にとっても確実な収入になるので経営の安定に繋がる。

森さんが、ソバ栽培の取り組みで大切にしていることは「地域に根差すこと」だ。

「地域貢献していない人の話を聞いてくれる人は少ない」そう考えた森さんは、大和町鳥獣被害対策実施隊として活動しながら、時間をかけて信頼関係を築いてきた。地元農家の理解と協力の根底には、人と人の繋がりがあ

今後の目標について、森さんは「農業体験なども交えて、農業・観光・飲食が好循環を生む環境を作り、地域の活性化に繋がりたい」と意欲を見せる。